



2023年11月20日発行

拝啓

今年も残りわずかとなりましたが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

図書館の窓からは、鮮やかに染まった山々を眺めることができるでしょう。

冬の訪れも感じられるかもしれません。図書館で豊かな時間を過ごしませんか。

是非お立ち寄りください。また電子図書館では、図書館に足を運ばずとも、心も体も温まるたくさんの本に出会えます。

気温差の大きい日が続きますのでくれぐれもご自愛ください。何かと慌ただしい時期ではありますが、皆様に穏やかな時間が流れますように。

かしこ

--今月号のラインナップ--

Calendar

2023年12月～2024年1月カレンダー

LiLian Special Info.

冬の足音が...

今月の一冊

『汝、星のごとく』

LiLian Interview

磯野正典先生（国際情報学部 国際情報学科）



2023年12月～2024年1月 カレンダー

12月

◎ 8:30～20:00 ○ 9:00～16:30

日	月	火	水	木	金	土
					1 ◎	2 ○
3 休館	4 ◎	5 ◎	6 ◎	7 ◎	8 ◎	9 ○
10 休館	11 ◎	12 ◎	13 ◎	14 ◎	15 ◎	16 ○
17 休館	18 ◎	19 ◎	20 ◎	21 ◎	22 ◎	23 ○
24/31 休館	25 休館	26 休館	27 休館	28 休館	29 休館	30 休館

1月

◎ 8:30～20:00 ○ 9:00～16:30

日	月	火	水	木	金	土
	1 休館	2 休館	3 休館	4 休館	5 ◎	6 ○
7 休館	8 休館	9 ◎	10 ◎	11 ◎	12 ◎	13 休館
14 休館	15 ◎	16 ◎	17 ◎	18 ◎	19 ◎	20 ○
21 休館	22 ◎	23 ◎	24 ◎	25 ◎	26 ◎	27 ○
28 休館	29 ◎	30 ○	31 ○			

最新情報はHPを
ご確認ください →



LiLian Special Info.

冬の足音が・・・

朝晩の冷え込みが増し、日中との寒暖差が大きい季節となりました。
二十四節気のひとつである立冬は冬のはじまりを迎える 11 月にあります。
つまり、11 月は寒さや年末年始に備えて、体も暮らしも準備する季節です。
皆さんは今年の冬を乗り切るための準備はバッチリでしょうか？

皆さんが読書を取り入れた冬を楽しく
過ごすための準備を 2 つご紹介します。



☆あたたかいお部屋をつくろう！

あたたかい部屋で安全に過ごすため、
空調設備や暖房器具の試運転は済ませて



ありますか？エアコンやヒーターなどは、しばらく使っていないと動かないなんてことがあるかもしれません。暖房器具の様子がおかしいと感じた場合は、修理を済ませたり買い替えを検討したりしましょう。本格的な冬が来る前に準備ができれば安心できます。

☆冬に読むための本を探しに行こう！

寒くて出かけたくない日はおうちで本を読むのはいかがですか？そのためには、本の準備が必要です。ブランケットにくるまって温かい飲み物片手に読書する時間は幸せです。また、普段は読まないジャンルの本に挑戦すると、何か新しい発見があるかもしれません。本格的な寒さが来る前に、図書館や本屋に足を運んでみてはいかがでしょうか？

晩秋から冬は体調の管理が大切な時期です。あたたかい部屋で快適に過ごすために、冬支度をして充実した冬を過ごしましょう！

厳しい寒さを心穏やかに過ごすため、早めに冬の準備を始めてみませんか？

(まっちゃん)

*** 今月の一冊 ***

『汝、星のごとく』 凧良ゆう／著

913.6
N26
3

閲覧室2F(読書コーナー)

凧良ゆうさんの『汝、星のごとく』は、全国書店員の投票で選ばれる
2023年本屋大賞を受賞しています。

瀬戸内の島で育った高校生の暁海(あきみ)と、自由奔放な母の恋愛に
振り回されて島に転校してきた權(かい)の二人が登場します。ともに
心に孤独と欠落を抱えた二人は、惹かれ合い、すれ違い、そして成長
していきます。

ぜひ、秋の夜長に読んでみてはいかがでしょうか？

(ももか)





LiLian Interview

大すきな先生に
インタビューに
行こう 57

国際情報学部 国際情報学科

磯野正典 先生



○趣味は何ですか？

コロナで時間があつた時に始めた「一人農業」です。JA から無料で貰える粃殻と糠を混ぜると上質な土が出来ます。基本は土作り、土台作り、人間と一緒にです。作物は胡瓜、ミニトマト、オクラ、ゴーヤ、枝豆など。沢山収穫出来ると大学でゼミ生や諸先生方に配っています。

○お休みの日は何をしていますか？

妻も働いているので家事です。少し前までは孫の育児も。孫達は海外居住で夏休みや年末年始に帰って来ると一緒に遊びます。テレビ局勤務時代に比べ比較的自由な時間が取れるので、休日という感覚はあまりなく、常に何かコソコソ・セコセコとやっています。

○今行きたい場所はどこですか？

ベトナムのハノイです。孫達がいるので。これまでアジア各地に行きましたがベトナムだけは行っていませんので。

○子供の頃の夢は何でしたか？

小学生の頃は「大きくなったらウルトラマンになる」と言っていました。これは孫も同じで、お互いに「なれるかな？」とか「なれるよ！」と言っています。中学生の頃からはずっと「放送局で働きたい」と。最初はアナウンサー志望で、その後は記者、ディレクター、プロデューサー…色々な事に取り組めた最高の仕事でした。

○学生時代の思い出は何ですか？

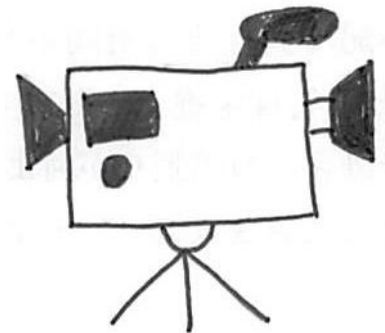
1 つ目は、全共闘世代最後の「ノンセクト・ラジカル」として、学生運動に参加したことです。様々な方面からの妨害に合いながらも、大学紛争で中断していた大学祭を復活させました。2 つ目は、放送研究会での活動です。授業に出ず、部室に入り浸ることもしばしばありました。

○学生時代の経験から学んだこと、いま学生に伝えたいことは？

自分の意見を「主張しないといけない」ということです。いまの若い世代は世の中に適応しようとして大人しくなりすぎています。これからの厳しい時代を生き延びるために、どんな場所でも生きられる適応力を身に付けて下さい。

○大学で働くことになったきっかけは何ですか？

テレビ局時代、業務で成蹊大学で非常勤講師をしていました。その時学生たちが「勝手にカツオゼミ」を設立し、そこに関わったことがきっかけです。「勝手にカツオゼミ」とは、就職活動でマスコミを志望する学生のためのインカレ組織、自分自身もマスコミへの就職活動の際に大学の先生や先輩にお世話になったため、お返しするつもりで始めました。そこでの学生達との出会いが決定的なきっかけです。



○現在のゼミ活動・研究はどんなことをしていますか？

「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「放送番組制作論」。
東北被災地の復興問題と沖縄米軍基地環境汚染問題は継続して取り組んでいます。社会学は現地・現在・現物を知ることが重要です。一番印象的だったのは、ゼミ生と一緒にいった沖縄米軍基地での現地調査です。これは研究者だからこそ出来たことで、テレビ局時代のジャーナリストとしては米軍基地に入れませんでした。磯野ゼミは全学生が成績優秀で、総代・優秀論文賞・学生表彰など毎年誰かが何らかの受賞をしています。学生が自主的に何でもどんどんやるので、有り難く、同時に自慢の学生でもあります。

○研究を深めていく中で達成感があったことは何ですか？

研究成果が書籍になった事や研究が学会で評価された事です。映像は 100 年もすれば無くなってしまふ、しかし、本はずっと生き残り後世に受け継がれます。テレビの世界で長く生きてきて来ましたが、活字文化と記録性の凄さを改めて感じました。

○先生の好きな本は何ですか？

北杜夫著『楡家の人びと』です。高校 1 年生の時、銀河テレビ小説を見て原作を読んだのをきっかけに嵌りました。『楡家の人びと』の読みどころは時代の流れです。明治から昭和にかけて、楡病院の中での人間模様や庶民の暮らし、これらを取り巻く世情が巧みに描かれています。

○学生のうちに経験しておくべきことはありますか？

何にでも挑戦をすること。最近は挑戦しない人が多いように思います。家、大学、バイトの三角点を回っているだけ、同じ友人と連んでいるだけでは世界は広がりません。いつもとは違う所に頭を突っ込む事で世界は無限に大きくなります。

○大切にしている言葉は？

「何事も兎に角やってみる事、やらずに後悔する程、馬鹿な事はない。後悔なんてずっと後にすればいい。」私にいつも目をかけてくれていたプロ野球監督・星野仙一さんの言葉です。



インタビューを終えて

前期に受講していた「国際情報概論」で磯野先生の授業が全三回あり、最初の人に本を紹介されていたことと、授業でのお話が面白かったためインタビューさせていただきました。最初は緊張しましたが、事前に資料を送ってくださったり、質問に丁寧に答えてくださったので、先生の意外な一面を知ることができ、とても楽しかったです。ありがとうございました！

(ゆい)

普段お話を聞けない他学部の先生にインタビューできたことは非常に面白い経験でした。お話を通して、自分の生き方の軸を見つめ直すきっかけとなる言葉にも出会えました。学部内での学びとは違う新たな学びを取り入れることができたと思います。お忙しい中インタビューを受けてくださりありがとうございました！

(りさ)

紹介された本（金城学院大学図書館所蔵）

『楡家の人びと』 請求記号：913.6/Ki61/3

